

2～3月の活動予定

月	火	水	木	金
21	22	23	24	25
	10～16時	閉	13～16時	
28	3/1	2	3	4
	閉	10～16時	閉	
7	8	9	10	11
	閉	閉	閉	
14	15	16	17	18
	閉	閉	16～19時 定期会合	
21	22	23	24	25
春分の日	閉	閉	10～16時	
28	29	30	31	
	閉	10～16時	閉	

予定は変更になる可能性がありますのでご了承ください。

プロジェクトや「提言する会」の活動やニュースレター「しーきゅうぶ」に対するご意見ご要望をお聞かせください。

郵便はがき

100-8787

(受取人)
東京都千代田区大手町1-6-1
財団法人電力中央研究所
社会経済研究所内
Cキューブ事務局
担当 土屋智子

料金受取人私

東京中央局
承認

4719

差出有効期間
平成17年3月
31日まで

ご意見・ご要望

よろしければお名前とご住所をご記入ください

C³プロジェクトでは、リスク情報の発信とコミュニケーションの場として事務局を設けています。ぜひお立ち寄りください。資料の貸し出しも行っています。

C³ (しーきゅうぶ) プロジェクトとは

プロジェクトの正式名称は、「原子力技術リスクC³研究：社会との対話と協働のための社会実験」といいます。平成14年度に経済産業省原子力安全・保安院が新設した提案公募型研究にリスクコミュニケーション分野の第1号として選ばれました。

東海村の皆さんといっしょにリスクを考え、行政や原子力事業者との対話や協働を実現するため、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」を設けています。現在のメンバーは16名。住民の視点で事業所の安全対策を確認・提言していく「視察プログラム」を中心に活動しています。

このニュースレターは、皆さんに広く活動を知っていただくために、作成・配布しているものです。役場やコミュニティセンターのほか、駅、合同庁舎、核燃料サイクル開発機構、日本原子力研究所、日本原子力発電株式会社の各見学・交流施設内に置いてあります。

つぶやき・C・C・C

あっと言う間の2年間。もっといろいろなことをやりたかったなあというのが率直な感想です。特に「しーきゅうぶ」はもっと皆さんに読んでいただけるようなものにしなければいけなかったと大反省しています。残りわずかですが、ぜひ厳しいご意見をお寄せください。(土屋智子)



原子力技術リスクC³プロジェクト事務局
〒319-1111 東海村舟石川821-52
東海村合同庁舎(1号館)2階
電話：029-287-1665
携帯：090-4674-0117
ホームページ：http://tokaic3.fc2web.com

しーきゅうぶ



2005年・2月・第17号

2年弱の活動を振り返って

東海村で活動してきたC³プロジェクトは、本年3月をもって終了いたします。活動に参加していただいた「東海村の環境と原子力安全について提言する会」の皆さんに、2年弱の活動内容を振り返っていただきました。

「東海村の環境と原子力安全について提言する会」では、12月と1月の会合で、すべての活動について★★★★★満点での評価を行いました。主なものをご紹介します。

視察プログラム全体について・★★★★

＜理由＞初めての活動だったが、事業所側もよく対応してくれ、事前の説明と議論で予備知識を得てから見学したため、レベルの高い提案もできた。提案が採用されたものもあり、言いつばなしにならなかった。村に提出した防災訓練視察レポートは、防災対策検討会の実施のきっかけのひとつになった。批判ばかりでなく、事業所のよい点も指摘している。

＜課題＞住民の皆さんに十分活動内容を伝えられなかった。村内13事業所のうち、2事業所しかできず、また継続して実施できていない。事業所側は一生懸命対応してくれたと思うが、提案内容への回答が遅れたり、こちらの意見を前向きに受け取ってもらえなかったりという不満がある。

毎月の会合での議論・★★★★

＜理由＞議論が偏らずよかった。時間が足りない。他の会合がない。主体的に関われなかった。

ニュースレター「しーきゅうぶ」★★

＜理由＞主体的に製作に関われなかった。内容がわからない、興味をひかない、訴求点がわからないなどの意見を聞いている。

以上の評価結果も踏まえながら
2月4日に座談会を行いました。
(写真は座談会の様子)



「東海村の環境と原子力安全について提言する会」の活動を振り返って

原子力について勉強したいと思って参加。これまでとは違う人とのふれあい、事業所との対話を経験。

・原子力関連事業所に勤務していたこともあって、周囲の人から質問されることがあったが、なかなか答えられなかった。原子力について勉強したいというのが参加した動機。参加してみると、これまで付き合ったことのない人と触れ合うことができた。視察プログラムを通して事業所と対話ができ、JCO事故以来心の中にあったわだかまりがなくなった。もちろん、原子力についていろいろ勉強できたことも収穫。東海村の安全・安心には、住民参加による活動が必要だと実感した。

視察プログラムがもう少し早く行われていたらJCO事故は起こらなかったのでは。

・この活動はよかった。特に視察プログラムでは、普通の見学では見られない所が見学でき、事業所幹部や現場の管理者の方たちとも安全管理や品質管理について話できた。12月には、JCOの5年前の作業現場についても意見を述べることもできた。もし、このような活動が以前から行われていたならば、現場の人たちの安全意識が若干でも変化したかと思う。もちろん視察した事業所の対応には若干の不満があったが、住民の目（第三者の眼）を意識してくれたと思うので、安心感も得た。これからも住民の目で、事業所に対して「王様、裸ですよ。」と言うことが重要。そういう点で視察プログラムは意味があり、ぜひ続けてもらいたい。

原子力には無関心だったが、JCO事故以来不安を感じるように。勉強のために参加したが、これまでの職場経験が役に立つことを発見。事業所にもインパクトを与えられたのでは。

・事業所の視察は知識がないと難しいかもしれないと思っていたが、それほど難しいことではなかった。自分の職業経験を活かすことができた。また、いろいろな職業や立場の人が参加しているので、異なった目でみた意見がたいへん参考になった。原子力はこれまで「かけ離れた存在」だったが、身近な存在に感じられるようになった。特に視察を通じて、事業者へ住民の声を届けるという橋渡し役ができたのではないかと考えている。残念なのは、私たちが得た情報や経験を他の住民の皆さんに十分伝えられなかったことである。もっと身近な存在として活動を続けたい。

原子力について多少の知識はあったが、JCO事故で不安を感じるようになった。この会は話しやすい雰囲気よかった。リスクについてもまとまった知識が得られた。

・JCO事故時に妊娠中の娘が里帰りしていた。すぐ娘を東京へ帰したが、「見えない」事故の恐ろしさを感じた。その後、言うに言われぬ不安を抱えていた。この会に参加してよかったことは、定例会の議論、視察、リスク勉強会である。定例会は議論しやすい雰囲気、違った面からの意見をたくさん聞くことができた。視察にはすべて参加している。目のつけどころが違う人の意見を聞いて勉強になった。リスク勉強会ではまとまった知識を得られた。

もっと皆で手をあげて活動しよう。情報の出し方には問題がある。事務局に任せっきりにせず、アイディアを持ち寄ろう。この会の活動の継続には十分時間をかけて話し合いたい。

・途中からの参加なので、自分が主体的に関わったように感じていない。活動にはいろいろな問題があると感じていたが、事務局に任せっきりだった。今後はいろいろ提案していきたい。

特別なことではなく、当たり前のことをやってきた。当たり前だから大事。これで終わらないようにすることが課題。

・最初は、特別なことをするのかと思っていた。実際には、当たり前のことを当たり前やってきた。意見交換、事前研修、視察、討議、提言へのまとめ。当たり前の事だから大事だと思う。これが定着した住民主体の活動になるかどうか、そして行政が関わっていないので継続できるかどうか不安。判断能力を養う上でも、具体的な事故例をメンバーで検証できたらと思う。

面白い会だった。防災訓練視察では行政の危機管理体制の問題点がよくわかった。原子力事業所の情報管理が厳しくなるので、これまでのようにできないのでは。

・面白い会だった。9月の防災訓練視察では、村の危機管理体制ができていないことがよくわかった。今後原子力事業所の情報管理が厳しくなるという記事を読んだので、これまでのように視察をすることは難しいのではないかと。また、ニュースレターを改良するなら、意見はがきがたくさんくるような情報誌にした方がよい。3万人以上の住民全員にわかる情報をつくることは難しい。

一般住民の代表ではない。意見も住民一般を代表しているかどうかは疑問。メンバーを広げる必要あり。

・最初にメンバーに偏りがあるのではないかと意見を述べた。住民意見といっても、何かに詳しい人の発言が多かったように思う。ニュースレターは改良したかったが、体調不良もあって何もできなかった。JCO事故のときはとても不安だったが、どのくらい危険だったのだろうか？原子力に詳しい人に教えてもらいたかったし、この会で議論したかったし、感情論だけでなく基本的な知識も加えて外に発信したかった。

この会の議論や視察などの活動は役にたった。原子力安全については、村や議会に任せるのではなく、村民が声をあげる必要がある。

・原子力事業所に勤めていたが、現役のときと異なって、原子力を別の角度から見ようになった。提言する会の議論や活動を通じて大いに勉強できた。欠席がちであったが、議事録のおかげで議論についていけた。村民が声をあげて、自分たちの望む施策を実現させていきたい。民主主義の確立のためにも提言する機能は重要である。

多くの勉強の機会になった。事業所が住民をどのように見ているのか。村に対しても存在価値をアピールすべき。

・機会あるごとに原子力事業所を訪問し、勉強の機会を得た。残念なことは、行政や事業所が住民をどのように見ているのか、住民のことを考えているのか疑問に思うことがある点。この会の存在価値をアピールしていく必要がある。

他の活動に影響を与えたのでは。視察の提言が実現に向かいつつある。議論の質を高めて、この活動をもっと公的に組上に載るものにしていく必要がある。

・原子力安全・保安院が北海道と島根県で似たような活動を始めている。「提言する会」の活動も参考にしていると思われる。また、昨年の原子力防災訓練では、我々の視察レポートの内容が村の検討会で議論された。このように、我々の活動の結果が公の場で衆目を浴びるようになってきているので、活動の質を一段高める努力をしなければいけないのではないかと。例えば、視察プログラムでは公開されている原子力事故情報を分析し、根本的な動機的原因の追究と対策が完了しているかを視察するなどである。